

< 年中行事と和菓子 >

6 月 16 日は和菓子の日

- とらやは和菓子を通して日本のこころと文化を伝承します -

和菓子は古くから様々な年中行事や慣わしと結びついて、人々の暮らしを豊かに彩ってきました。シリーズ< 年中行事と和菓子 > では、日本古来の行事とともに暮らしを彩る和菓子をご紹介します。今回は「和菓子の日」について、とらやのお菓子やイベントとともにご案内いたします。

「和菓子の日」の由来

6 月 16 日は「和菓子の日」。この記念日は、昭和 54 年(1979)に全国和菓子協会が制定したのですが、そのルーツは「嘉祥」(嘉定)という儀式にあります。菓子が主役の儀式で、江戸時代には公家や武家から庶民までみなが厄除招福を願って菓子を食べました。

「嘉祥」と和菓子

嘉祥の由来は諸説あり、平安時代の仁明天皇の御代から始まる招福・厄除けの行事とも言われます。室町時代には毎年 6 月 16 日に行われるようになり、江戸時代に広まり、明治時代に途絶えました。

室町時代の武家ではこの日楊弓を行ない、負けた者は中国の通貨「嘉定通宝」16 枚で食物を購って、勝者に供しました。嘉と通が「勝」に通じることから、武家に尊ばれたのです。

江戸幕府は嘉祥を重要な行事と位置づけ、江戸城の大広間に饅頭・羊羹など約 2 万個を並べ、将軍が大名・旗本へ菓子を与えました。

庶民の間でも同じ日に菓子などが食べられていました。井原西鶴『諸艶大鑑』(1684)には、京都島原の嘉祥喰いの場面が見え、とらやの羊羹など 16 種の食べ物が用意されています。



虎屋所蔵「千代田之御表 嘉祥」：江戸城内にて大名たちに菓子が配られている様子が分かる。

< 参考資料 >

奥野高廣『皇室御経済史の研究』/富岡鐵齋『嘉祥菓子図』/鈴木晋一「嘉定と菓子」 機関誌『和菓子』創刊号/中山圭子『和菓子ものがたり』/青木直己『図説 和菓子の今昔』

とらやでは、「和菓子の日」にちなんだお菓子の販売（期間限定）と関連イベントを行ないます。

<お菓子>

嘉祥菓子（要予約） 江戸時代、宮中では天皇から下賜された米1升6合を公家が菓子と取り替える習いがありました。1と6を足した数「7」にちなみ7種の菓子が用意されました。土器に盛った7種類の嘉祥菓子は、江戸時代末期、御所にお納めしていたものを原形にお作りしています。 価 格：7ヶ盛 2,447 円（税込） 販売期間：6月16日	
福こぼこ 道明寺製「なりひさご」、煉切「はね鯛（紅白）」、「御目出糖」の3種を組み合わせた縁起の良いお菓子です。 価 格：1箱 1,680 円（税込） 販売期間：6月10日～6月16日	
嘉祥饅頭 3種（黄の薯蕷饅、紅の新饅、利休饅）の小さなお饅頭です。それぞれに嘉定通宝の朱印、招福の焼印、全国和菓子協会マークの焼印を押してあります。 価 格：化粧箱3個入 998 円（税込） 販売期間：6月10日～6月16日	
嘉祥蒸羊羹 江戸幕府の嘉祥菓子のひとつを再現しました。 ほのかな黒砂糖の風味と、煉羊羹とは違う蒸羊羹独特の歯ごたえをお楽しみ下さい。 価 格：1本 2,100 円（税込）*配送可 販売期間：6月1日～6月16日	

商品により販売店が異なります。詳しくはお問い合わせください。

<イベント情報>「年中行事を楽しむ 親子和菓子教室<和菓子の日>」のご案内

年中行事と和菓子をより身近に感じていただきたいとの思いから、親子和菓子教室を開催いたします。

開催日時：2010年6月12日（土） 一部...10：00～12：00 / 二部...15：00～17：00

場 所：虎屋本社ビル4階ホール

内 容：和菓子づくり（お饅頭） お話（年中行事と和菓子、嘉祥の儀式）

応募資格：小学校4年生から中学校3年生のお子様と保護者の方

参 加 費：親子1組 2,000 円 / 定 員：各回親子8組（抽選）

応募方法：はがきに住所・氏名（親子2名）・お子様の学年・電話番号・希望日時を明記のうえ、

〒107-8401 港区赤坂4-9-22（株）虎屋 社長室 広報課

「年中行事を楽しむ 親子和菓子教室<和菓子の日>」係迄 / 5月20日（木）必着



お問い合わせ先：株式会社 虎屋 社長室 広報課

電話：03-3408-4128